

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 43号

2013/04/08 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：レンジ内取引で方向感がない状態。週後半にやや下への動き。

①週最高：LDN 市場£1,482 / NY 市場\$2,184 (4/2 及び 4/1) 先週比 **LDN+£5/NY+\$14**
②週最低：LDN 市場£1,436 / NY 市場\$2,132 (共に 4月5日) 先週比 **LDN-£12/NY+\$3**
週内差額 (①-②)：LDN 市場£46 (傾向↓) / NY 市場\$52 (傾向↓)

【4月1日(月)】ニューヨーク続伸、ロンドン休場

ニューヨーク市場の5月きりは続伸し、前営業日(28日)終値比14ドル(0.6%)高の**2184ドル**で引けた。テクニカルな上値抵抗線の2200ドル付近を試して失敗した後は、1日を通してレンジ取引となった。

ロンドン市場はイースターのため休場。

【4月2日(火)】ニューヨーク反落、ロndonは続伸

ココア先物はまちまち。

ニューヨーク市場の5月きりは、13ドル(0.6%)安の2171ドルと反落して終了した。

ロンドン市場の7月きりは、5ポンド(0.3%)高の**1482ポンド**と続伸して引けた。(

【4月3日(水)】両市場とも下落。良好なミッドクロップ見通しで。

ニューヨーク市場の5月きりは、一時1週間ぶり安値の2130ドルを付けた後、前日終値比21ドル(0.9%)安の2150ドルで引けた。

西アフリカにおけるミッドクロップの供給見通しが良好なことなどに圧迫された。

シティグループ(シカゴ)の先物専門家、スターリング・スミス氏は「早い段階で手じまいや利益確定売りが出て、その後買いは入らなかった」と述べた。また、ココアはレンジ取引が続いており、下値支持線は2100ドルだと指摘した。ロンドン市場の7月きりは、18ポンド(1.2%)安の1464ポンドで終了。

【4月4日（木）】両市場とも続落。米経済成長停滞への懸念が再燃

ニューヨーク、ロンドン市場ともに続落。米新規失業保険申請が増加し、経済成長の停滞への懸念が再燃した。

ニューヨーク市場の5月きりは、前日終値比9ドル（0.4%）安の2141ドルで引けた。出来高は、インデックスファンドによる期先への乗り換えで増加した一方、ディーラーらは5日に満期を迎える5月きりに注目。コートジボワール産のミッドクロップの全般的な見通しの良さなどが、市場心理を弱気に傾けている。ロンドン市場の7月きりは、12ポンド（0.8%）安の1452ポンドで終了した。

【4月5日（金）】両市場とも続落。コートジボワール豊作予想で。

ニューヨーク市場の5月きりは続落、5月きりは9ドル（0.4%）安の**2132ドル**で引けた。週間ベースでは1.8%安となり、当ぎりとしては3月初旬以来の下落率となった。

プライス・フューチャー・グループは「今週に下落した一因は、(テクニカルな)上値抵抗線を維持できなかったことにある」と指摘した。

ロンドン市場の7月きりも続落、16ポンド（1.1%）安の**1436ポンド**で終了。コートジボワールでミッドクロップの豊作が予想されていることが圧迫要因となった。

2、欧州カカオ豆市場、業界筋の買い鈍調＝価格下落への期待で一トレーダー筋(4/6)

トレーダーらは5日、今週の欧州カカオ豆市場では、さらなる価格下落への期待から、業界筋の買いが鈍かったと指摘した。イースターのチョコレート販売が失望感を呼んだことも、地合いを圧迫した。

あるトレーダーは「コートジボワールでは豊作が見込まれ、アフリカからの供給は良好だ。今後数カ月の供給は潤沢で、業界は先物の下押し圧力を予想しており、買いを遅らせるのは良策だろう」と述べた。

また、別のトレーダーは「景況感の弱さやユーロ危機で、消費者は菓子などのぜい沢品を買うことを控えている」と述べた。特に、南欧でのチョコレート売り上げが低迷しており、欧州のカカオ豆圧砕高減少が見込まれているという。欧州ココア協会（ECA）は17日に、第1四半期のカカオ豆圧砕高を発表する予定。

3、コートジボワール、まとまった雨でカカオ豆の生育は促進＝農家やアナリスト(4/3)

コートジボワールの農家とアナリストらは2日、同国のカカオ豆産地で先週、まとまった雨が降り温度が上昇したことで、ミッドクロップ期の作物の生育が促進されたと指摘した。ただ、作物が今後も順調に生育するためには、今月中に降雨が継続することが引き続き重要となる。同国は世界最大のカカオ豆生産国。

4、3月末のコートジボワールのカカオ豆着荷量、102万6000トン＝前年下回る（4/3）

輸出業者が2日に公表した推計によると、2012年10月～13年3月31日のコートジボワールの主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は、約102万6000トンとなり、前年同期の104万7364トンを下回った。3月25～31日の1週間の2港への着荷量は約1万4000トンと、前年同期（7000トン）から増加した。

5、12～13年度のガーナ・カカオ豆買い付け量、前年度比15.9%減＝21日時点(4/2)

4月2日に閲覧したガーナのカカオ豆監督機関、ココア委員会（C o c o b o d）の統計によると、2012～13年度（12年10月～13年9月）の同国カカオ豆買い付け量は3月21日時点で計60万1303トンと、前年度同期を15.9%下回った。

また、21日で終了する第23週の1週間での買付け数量は2,432トンで、22週目の2619.56トンより若干減少した。

同国は12～13年度のカカオ豆収穫高を前年度比5%減の80万トン前後と見込んでいる。

6、インドネシア・スラウェシ島からのカカオ輸出前年対比147%増加を記録

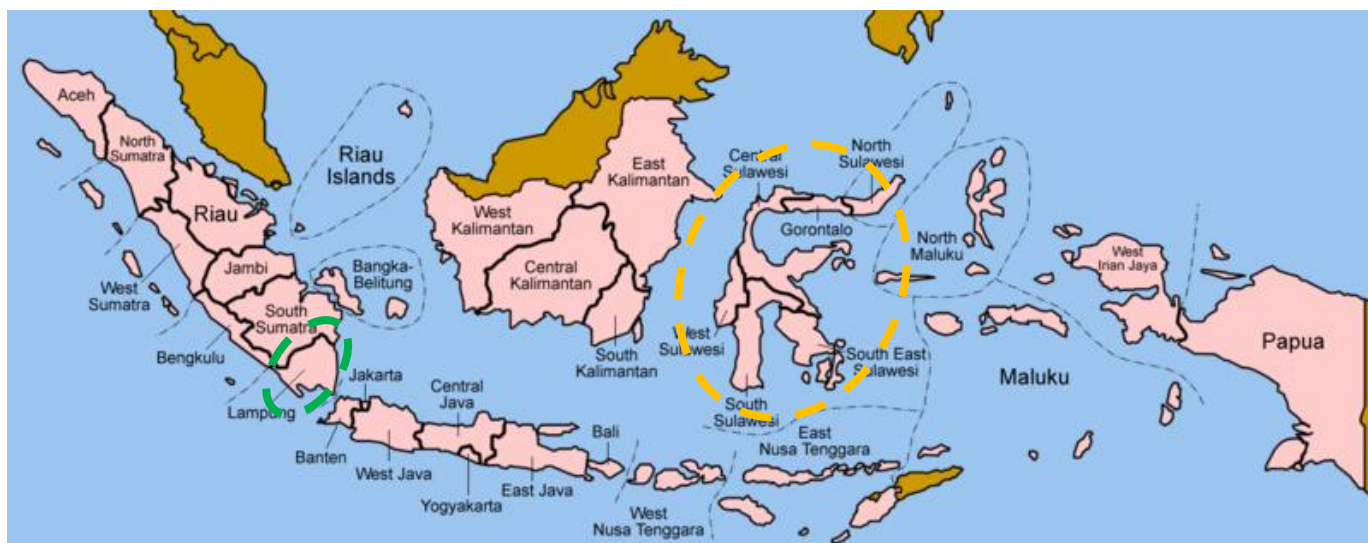
インドネシアの主要なカカオの産地であるスラウェシ島からの3月度のカカオ豆の輸出は前年の3505トンから147%増加し、8662トンとなったと発表された。

また、2月の輸出数量は2月の輸出数量7790トンよりも11.2増加した。

インドネシア全体のカカオ豆の生産数量は、コートジ、ガーナに次ぐ世界第三位で2013年のカカオ生産数量は11%程度上昇し、45万トン～50万トンになると見込まれている。

《*スラウェシ島の位置関係・・・下記オレンジの点線部分》

《*スマトラ島ランポン州・・・下記みどりの点線部分》



出典;ウィキペディアコモンズ

《スラウェシ島からのカカオ豆の輸出数量 2012/2013》

月	輸出数量 (トン)	前年対比 %

2013年		
March	8,662.08	+147
February	7,790.50	-2
January	8,349.38	-6

2012年

December	7,508.11	-38
November	9,417.71	-20
October	5,734.81	-17
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37
June	4,935.48	-68
May	7,912.02	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23

7、インドネシア、スマトラ島ランポン州からの3月度カカオ豆輸出は49%減少(4/1)

インドネシア、スマトラ島のランポン州からの3月のカカオ豆輸出は前年対比49%減の660トンであったことが判明した。スマトラ島ランポン州のカカオはPanjang港から輸出されるが、この地域のカカオ豆はインドネシアの中ではマイナーな生産地区であるが、カカオ豆の品質は通常非常に発酵状態の良いカカオ豆が輸出されることで有名である。

2013年のカカオ豆の収穫数量は45万トン～50万トンと増加傾向と言われているが、カカオ豆の輸出数量については、国内のカカオ豆磨砕業者の製造キャパシティが拡大した為、2013年は前年の13万トンから10万トンへ落ちる見込みと言われている。

2012/2013 ランポン州のカカオ豆輸出数量統計

月	輸出数量(トン)	前年対比%
---	----------	-------

2013年

March	660.4	-49
February	254	-63
January	609.60	-76

2012年

December	--	--
November	1,270.00	-68
October	4,493.26	+468.8
September	711.2	-21
August	558.76	-75
July	3,174.8	+18.7

June	889	-83.2
May	2,540	-27
April	762	+20
March	1,300	-76
February	691.9	-74
January	2,514.6	+52

2012 TOTAL:	18,905.52	-40

今週の関連ニュース) T P P 交渉、「聖域」守れなければ撤退も = 林農水相 (4/1)

林芳正農林水産相は31日午前、NHKの番組に出演し、環太平洋連携協定(T P P)交渉参加問題について「(国益を守れない場合は)席を立てて帰ってくることを視野に入れればよい」と述べた。コメや砂糖などを「聖域」として関税撤廃の例外扱いとする目標を達成できない場合は、交渉からの撤退も検討すべきだとの考えを示した発言だ。

林農水相は「『最後はサインしなければいけない』ということはない」とも語り、日本が得る利益が小さければ、合意に加わらない選択肢もあると指摘した。米国などT P P交渉参加11カ国が年内合意を目指している点には、「日本の国益が満たされない場合は、もう少し議論すべきだと要求してもよい」と述べ、期限にこだわらない方がよいとの考えを明らかにした。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

